

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この文章の山は、末尾「何の陋しきこと之有らん」の反語と倒置、対になる語（鴻儒⇔白丁・絲竹⇔案牘）、そして「住む人の徳こそが大切だ」という主題です。

あらすじ＝山は高さで、水は深さで値打ちが決まるのではない。仙人がいれば山は名高くなり、龍がいれば水は霊妙になる。それと同じで、この家はせまく粗末でも、住む私の徳が香っていればそれでよい。こけのついた石段、すだれ越しの草の青さ。訪ねてくるのは学識のある人ばかりで、俗な人はいない。素朴な琴を弾き、貴い経典を読む。うるさい樂の音も、役所の書類もない。南陽にあった諸葛孔明のいおりも、西蜀にあった揚子雲のあずまやも、同じように質素な住まいであった。孔子も言っている、「どうして粗末だなどということがあろうか」と。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① 山（やま）は高（たか）きに在（あ）らず、② 仙（せん）有（あ）れば則（すなは）ち名（な）あり。水（みづ）は深（ふ）か）きに在らず、③ 龍有れば則ち靈（れい）あり。④ 斯（こ）れは是（こ）れ陋室なるも、⑤ 惟（た）だ吾（わ）が徳（とく）のみ馨し。

⑥ 苔痕は階（きざはし）に上（のぼ）りて緑に、⑦ 草色（さうしょく）は簾（すだれ）に入（い）りて青（あを）し。談笑（だんせう）に⑧ 鴻儒有り、往来（わうらい）に⑨ 白丁（はくてい）無（な）し。⑩ 以（もつ）て素琴（そきん）を調（しら）べ、金経（きんけい）を閱（けみ）すべし。⑪ 絲竹の耳（みみ）を乱（みだ）す無く、⑫ 案牘の形を勞（らう）する無し。

⑬ 南陽（なんやう）の諸葛（しよかつ）の廬（ろ）、西蜀（せいしよく）の子雲（しうん）の亭（てい）。孔子（こうし）云（い）はく、「⑭ 何（なん）の陋（い）やしきこと之（これ）有らん」と。

語注 陋室＝せまくて粗末な家・部屋。「陋」はみすばらしい・いやしいの意。作者が自分の住まいをへりくだって言う語。在らず＝～にあるのではない。値打ちがそこにあるのではない、ということ。則ち＝～すれば（その結果）くだ。順接の条件を表す。靈あり＝霊妙である。神秘的で尊い。馨し＝よい香りが高い。ここは徳（人格）がすぐれていることのたとえ。苔痕＝こけのあと。人の出入りが少ない静かな住まいを表す。階＝きざはし。石段。簾＝すだれ。鴻儒＝学識の深いすぐれた学者。「鴻」は大きい・すぐれたの意。白丁＝官位のない、学問や教養のない人。「鴻儒」と対になる語。素琴＝飾り気のない素朴な琴。調ぶ＝（琴を）弾く。弦をかき鳴らす。「調査する」の意ではない。金経＝金泥（きんでい）で書かれた貴い経典。閱す＝「けみす」と読み、（書物を）読む・ひもとくの意。「閱（えつ）す」と読む本もあります。お使いの教科書に合わせてください。絲竹＝弦楽器と管楽器。転じて音楽・楽器の音。「糸竹」と書く本もある。案牘＝役所の公文書・書類。わずらわしい役所づとめの象徴。形＝からだ。勞す＝疲れさせる。南陽の諸葛＝諸葛亮（孔明）。南陽で畑を耕し、草ぶきの家に住んでいた。西蜀の子雲＝揚雄。あざなを子雲という。蜀の出身で、漢の時代の学者・文人。廬＝草ぶきの粗末な家。いおり。亭＝あずまや。※もとの白文は「山不在高、有仙則名。水不在深、有龍則靈。斯是陋室、惟吾徳馨。苔痕上階緑、草色入簾青。談笑有鴻儒、往来無白丁。可以調素琴、閱金経。無絲竹之乱耳、無案牘之勞形。南陽諸葛廬、西蜀子雲亭。孔子云、何陋之有。」※「斯れは是れ陋室なるも、惟だ吾が徳のみ馨し」は、「斯れは是れ陋室なれども、惟だ吾が徳の馨しきのみ」と読む本もあります。お使いの教科書に合わせてください。※「南陽の諸葛の廬、西蜀の子雲の亭」を「南陽の諸葛が廬、西蜀の子雲が亭」と読む本もあります。※末尾は「何の陋しきこと之有らん」と読む本と、「何の陋しきことか之れ有らん」と読む本があります。これもお使いの教科書に合わせてください。

A 語句の意味と読み (1～7)

- (1) ④ 「斯(こ)れは是(こ)れ陋室なるも」の「陋室」の読みと意味を書け。
- (2) ⑤ 「惟(た)だ吾(わ)が徳(とく)のみ馨し」の「馨し」の読みを送り仮名もふくめて書け。また意味も書け。
- (3) ⑥ 「苔痕は階(きざはし)に上(のぼ)りて緑に」の「苔痕」の読みと意味を書け。
- (4) ⑧ 「鴻儒」の読みと意味を書け。
- (5) ⑨ 「白丁」の読みと意味を書け。
- (6) ⑪ 「絲竹の耳(みみ)を乱(みだ)す無く」の「絲竹」の読みと意味を書け。
- (7) ⑫ 「案牘の形を勞(らう)する無し」の「案牘」の読みと意味を書け。また、ここでの「形」の意味も書け。

B 句法 (8～14)

(8) ① 「山(やま)は高(たか)きに在(あ)らず」は、「山が高くない」という意味ではない。「在らず」が山の何を打ち消しているのかわかるように、この句の意味を説明せよ。

(9) ② 「仙(せん)有(あ)れば則(すなは)ち名(な)あり」の「則ち」の意味・用法を書け。

(10) ⑤ 「惟(た)だ吾(わ)が徳(とく)のみ馨し」の「惟だ」は、もとの白文では「惟」一字である。どのような句法か、意味とともに書け。

(11) ⑩ 「以(もつ)て素琴(そきん)を調(しら)べ、金經(きんけい)を閱(けみ)すべし」は、もとの白文では「可以調素琴、閱金經」である。「可以」はどのような意味を表すか。

(12) ⑪ 「絲竹の耳(みみ)を乱(みだ)す無く」は、もとの白文では「無絲竹之乱耳」である。この「之」はどのような働きをしているか。

(13) ⑭ 「何(なん)の陋(いや)しきこと之(これ)有らん」に用いられている句法の名を書け。また、その意味も書け。

(14) ⑭ 「何(なん)の陋(いや)しきこと之(これ)有らん」のもとの白文は「何陋之有」である。ふつうの語順に直すとどうなるか。また、そのとき「之」はどのような働きをしているか。

C 主語・指す内容 (15～17)

(15) ④ 「斯(こ)れは是(こ)れ陋室なるも」の「斯れ」は何を指すか。

(16) ⑬ 「南陽(なんやう)の諸葛(しよかつ)の廬(ろ)、西蜀(せいしよく)の子雲(しうん)の亭(てい)」の「諸葛」「子雲」は、それぞれ誰のことか。

(17) ⑭ 「何(なん)の陋(いや)しきこと之(これ)有らん」は誰の言葉として引かれているか。また、この文章では何が「陋しくない」と言われているのか。

D 口語訳 (18～21)

(18) ①②③をふくむ「山は高きに在らず、仙有れば則ち名あり。水は深きに在らず、龍有れば則ち靈あり」を口語訳せよ。

(19) ④⑤をふくむ「斯れは是れ陋室なるも、惟だ吾が徳のみ馨し」を口語訳せよ。

(20) ⑥⑦をふくむ「苔痕は階に上りて緑に、草色は簾に入りて青し」を口語訳せよ。

(21) ⑪⑫をふくむ「絲竹の耳を乱す無く、案牘の形を勞する無し」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ③「龍有れば則ち靈（れい）あり」までの冒頭の四句は、何のために置かれているか。あとに続く内容との関係にふれて書け。

(23) ⑧「鴻儒」と⑨「白丁」をふくむ「談笑に鴻儒有り、往来に白丁無し」は、形式上どのような関係の二句か。その名を答え、この対比によって作者が何を示そうとしているかもあわせて書け。

(24) ⑬「南陽（なんやう）の諸葛（しよかつ）の廬（ろ）、西蜀（せいしよく）の子雲（しうん）の亭（てい）」を持ち出したのはなぜか。説明せよ。

(25) この文章全体で作者が最も言いたいことは何か。⑤と⑭の内容をふまえて四十字以内で書け。

F 文学史・故事・思想 (26～28)

(26) この文章の作者名と、その人が生きた王朝の名を書け。また、題名の「銘」とはどのような文章かも書け。

(27) ⑬「南陽（なんやう）の諸葛（しよかつ）の廬（ろ）、西蜀（せいしよく）の子雲（しうん）の亭（てい）」のうち、「南陽の諸葛の廬」の諸葛亮について、この草ぶきの家をめぐって生まれた故事成語を書け。また、その意味も書け。

(28) ⑭「何（なん）の陋（い）やしきこと之（これ）有らん」は、もともとどの書物に見える孔子の言葉か。書名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①末尾「何の陋しきこと之有らん」は反語＋倒置。「どうして粗末だといえようか、いや、粗末ではない」。もとの語順は「有何陋」で、目的語を「之」で前に出した形。書き下し・意味・語順の三つをセットで答えられるようにしておく。 ②対になる語は組で覚える。「鴻儒」⇔「白丁」、「絲竹」⇔「案牘」。片方だけだと、対句の説明が書けません。読みも「こうじゅ」「はくてい」「しちく」「あんとか」まで。 ③主題は「家の立派さではなく、住む人の徳」。⑤「惟だ吾が徳のみ馨し」が主旨句、⑭が結び。記述問題の答えは、ほぼこの二か所に集まります。